

カラービデオプリンターを使った内視鏡写真

石川 悟

(日立製作所日立総合病院)

鶴田 敦

(日立製作所水戸総合病院)

消化器と違って、泌尿器科においては、内視鏡の写真撮影がルーチン化されているとはいえない。これは、硬性鏡が明るさの不足から写真撮影に不向きなこと、患者が苦痛を感じている時に写真などを撮っている余裕がないこと、また診断が容易で写真を持ち寄って検討する必要性をあまり感じなかったこと、などの背景があると思われる。

近年、内視鏡ビデオシステムが以前より安価に手に入るようになり、一般病院でも普及してきた。当院でも外来では軟性膀胱鏡とビデオシステムを組み合わせ、手術室ではビデオTURを行っている。最近我々は、このシステムに家庭用として販売されているカラービデオプリンター（ソニーCVP-G500、日立VY-150など）を組み込み、簡単に内視鏡写真を作っているので紹介する。

プリンターをビデオレコーダーに接続し、必要な場面を選び、スイッチを押すだけで1～2分後にカラープリントされる。後で現像してみたらうまく写っていないなどということもない。必要な場面だけプリントすればよいので、1枚あたりは少し高価だが、結果的には経済的である。また、内視鏡写真用のカメラを使っては考えられないようなTURを行っている最中の写真(図1)、鉗子操作を行っている最中の写真などが可能である。即席にプリントできるので、検査終了後すぐに結果の整理が可能であり、紹介医への返事

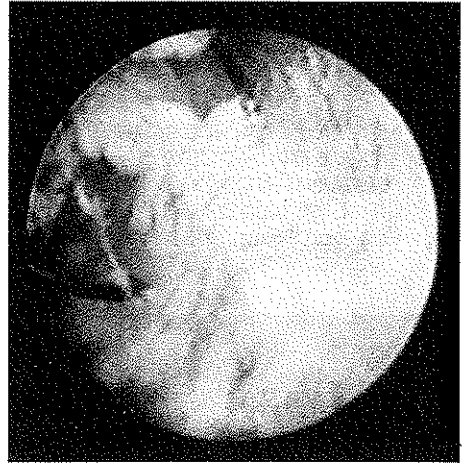


図1 膀胱腫瘍TURの最中。腫瘍が硬く浸潤性である。

に内視鏡写真をつくることもできる。

難点としては、写真の永久保存が保存状態にもよるであろうが、できないといわれていることである。しかし、我々の撮った写真は、今のところ数カ月で画像が劣化する気配はない。どうしても永久保存の必要のあるものは、プリントしたものをもう一度写真に撮り直せばよい。家庭用として販売されているので高価ではなく、他の電気製品のように一般に普及するにつれてさらに安くなるであろう。

POSなんて簡単さ

新刊

中本高夫

●B5 頁122 色図58 1990
定価1,957円(税込) 千300

本書は、高学年医学生、研修医向けに解説したPOSの入門書。初学者がつまずきそうな部分を著者独特の平明な語り口で解説し好評を博した「週刊医学界新聞」の連載をまとめたもの。国試ガイドラインにも取り入れたPOMRの基本的な考え方を習得する上で格好の書。

医学書院 1113-91 東京・文京・本郷5-24-3 ☎東京(03)817-5657(販売部直通) 振替東京7-96693